

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告(その42・43)です。

◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2021 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学online」の場をお借りして、関市内の45企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

◇ 企業紹介

【早川工業株式会社】

50年にわたって培われた金属加工の技術を活かし、金属の板から部品を作る「プレス加工」と、その元となる「金型」を製造しています。ダイバーシティ経営を基に、社員一人一人の多様性を価値に変え調和する企業を目指し、各々の感性・創造性を活かしたモノづくりにより、第四の価値軸である感性価値を付加したいと考えています。



【HP】 <http://hykw.co.jp/>

SDGs	取組中	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を實現しよう	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	今後の目標	3 すべての人に健康と福祉を
		11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	17 パートナーシップで目標を達成しよう			

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・これからの社会では、固定概念に囚われずに新たな感性を磨いていくことが大切だと分かりました。社会に同調するのではなく、自分の個性を社会にプラスするということを学びました。主に金属の加工などを行っている会社だが、それだけでなく、ロケット宇宙事業に参加したり、町工場フェス、音楽レーベル活動、アート展、部活動、社交場など色々な活動に参加されたりしていて、それも社員の自主性を大事にしているということがとてもすごいことだなと感じました。これは住みやすい町づくりに繋がっていると思います。また社員の多様性を大切にしている、それを仕事に活かしているところがすごいと感じました。

・話を聞いていて最初に思ったことは、楽しそうな会社だということです。くだらないものグランプリやオープンファクトリー事業、関の工場参観日など様々なイベントに、社員の方自らが参加していくのは、自分の仕事が楽しくて誇りをもてる人にしか出来ないことだと思います。ダイバーシティの話もとても興味深かったです。多様な個性が共存して認め合えれば、新たな価値観が生まれ出すというのは、頭では分かっているつもりでしたが、改めて説明していただくことでより考えを深められたと思います。

・「多様性を競争優位の原則に」をテーマとし、インターン制や障がいがある人などの積極的な受け入れをし、全ての人の特徴を生かす取り組みをしていた。プレス業では廃材が問題となることが多いが、部活動のような形で廃材アクセサリーの製作、販売を行ない、ゴミを減らす取り組みをしていた。企業単位で考え、さまざまな人の雇用やゴミを減らす方策を考えるなど身近な事から課題解決に取り組んでいけるのだなと思った。早川工業さんでは、「ダイバーシティ経営」という方策が採用されています。「ダイバーシティ経営」とは、個人の個性を活かすことによって、意図的に議論を起こし、予測不能なこれからの社会で最適解を見つけ出そう、というものです。社長さんのお話ぶりが、「マイノリティーの為に」という慈善的なものでなく、あくまで経営戦略だ、といったのが印象的でした。個性的な取組も多く、社員の皆さんがのびのびされているという印象を受けました。

・製造業では、「機能性」「信頼性」「価格適合性」の3つの価値観だけでなく第4の価値観「感動や共感といった感性価値」が求められているとお話しされているのを聞いてとても驚いた。なぜなら製造業で感性が必要になることなんてあるわけないと私が思い込んでいたからだ。しかし、様々な国や特技をもった人材が集まることでその価値観を実現し様々な価値観や考え方があってこそ多様性を重視した会社が作れるのだと聞いてとても興味が沸いたし、私も色々な価値観や考え方に触れて多様性のある人間になりたいと思った。

・早川工業は、知的障害の雇用率が13.6%と一般的な企業の平均よりも高いそうだ。LGBTQの配慮も重視されている。なぜ幅広い雇用を受け付けているかということ、一人一人の個性を特に大事にしており、個々の色は社会や企業にプラスすると考えられているからである。そしてアート展など様々なイベントにも力を入れていることが分かった。この講座からはこれからの企業の在り方がよく勉強になった。

・これからはVUCA時代ということが多様性に力を置いていることがわかった。人それぞれの多様な感性や創造性をイノベーションすることで問題解決につながるということを学んだ。早川工業さんの説明では、経営理念、ダイバーシティ(多様性)への考え方、SDGsへの取り組み方について学びました。自分が特に印象に残ったのは多様性の考え方です。健常者、障害者、男性、女性、年齢など様々な人がいる中で、その人の外側で判断するのでは無く、その内側を大切にしたいという考えが素敵だなと思いました。「普通」というつまらないものではなく、それぞれの人がもつ特徴を生かした仕事を見つけて、一人一人がしていることを聞いてとても感動しました。

・早川工業さんは、社員さんの積極性が高く、各々の個性を引き出しているのが魅力的だと感じました。LGBTQの方への配慮は、かなり早い段階からされていて尊敬しました。また、障がいがある方でも、必要な人材に障がいがあるだけに過ぎない、という考え方で、そこには大した差はないとされているところには感激しました。とてもためになる話を聞くことができ、有意義な時間をすごせたので、たのしかったです。

◇ 企業紹介

【株式会社 山秀】

創業 80 年を超す歴史を持ち、海外のナイフショーへ実際に足を運び、世界中の一流ナイフを直接買い付け販売する。近年では工場、職人とオリジナル製品の企画開発にも力を入れております。実店舗では常時 300 点を超すナイフが陳列され実際に手にとってご覧いただけます。



【HP】 <http://www.yamahide.com/>

SDGs	取組中	8 働きがいも経済成長も	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	今後の目標	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさも守ろう	17 パートナリシップで目標を達成しよう

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・関の刃物を使い、様々なナイフなどを実用的かつお洒落に作り、関の刃物をより身近な物にしていることがわかった。また、お客さんのニーズに合わせた商品作りをしていることもよく分かった。

・山秀さんはアウトドアナイフを作っている会社であり、YouTube で商品紹介をしたり、店頭で販売したりしてアウトドア初心者でも楽しめる工夫をされていてすごいと思った。女性社員も多く、社長も女性で男女平等に接することが出来ていて本当にすごいと思った。

・話を聞いてみて、刃物は関市で有名で世界からも評価されていて本当にすごいなと思いました。山秀さんは日本ではナイフ、刃物=凶器というイメージがあるので、それを払拭するのに 10 年ぐらい苦労されているそうです。そのためにイベントを開催して刃物の楽しさを伝えたり、SNS・YouTubeなどで刃物を紹介したりして、ナイフユーザーを増やしてナイフ=生活道具、楽しい道具というイメージを持って欲しいという思いが伝わってきました。やりがいについて、店舗でナイフを販売している方が、使ってくれたお客さんに「このナイフでよかった」と言われることが一番嬉しいとおっしゃっていました。まだ私は将来のことが全然決まっていなけれど、それを聞いて人に喜んでもらえる仕事に就こうと思いました。

・関の刃物は世界でも良く活躍しているのだと初めて知った。今まで刀などは日本の中でしか売られていないと思っていたけれど、意外とグローバルに活動していると知って驚いた。また日本の刃物が海外の人にも認められていると知って嬉しかった。自分たちの仕事に誇りを持って活動をし、刃物を日本だけでなく世界に広げようとする気持ちがとても伝わった。海外とのブランドを立ち上げて、デザインにも凝った刃物を作り上げていることから、関市の刃物はほんとにすごいのだなと改めて思った。SDGs の作る責任、使う責任にちなんで、10 年、20 年と刃物を使って貰えるように刃物を自分たちで作れるイベントを行っていて、私も道具を長く使える人になりたいと思った。

・ナイフへのイメージが大きく変わりました。ナイフは便利だけど怖くて痛いというイメージを

持っていましたが便利で、ひとつの生活道具であり、芸術の詰まった素晴らしいものだとなりました。こう感じ取れたのもこの会社の素晴らしいところだと思いました。ナイフというもののイメージを変えることに努力した山秀さんはすごいと思います。

- ・関市の刃物は有名なことは知っていても、具体的なことは知らないことが多かった。特に、ナイフは男性が使うものとか危険なものというイメージが強かったが、女性向けのイベントを開催し、子供にもナイフを使ってもらえるようにするなど工夫している事がわかった。

- ・刃物の楽しさを伝えるイベントを通して、作る責任に取り組んでいる。他にも YouTube にメンテナンス方法の動画を上げて長く使えるようにレクチャーしている。会社としては、ナイフに関わる全てのことに責任を持っていて、使いやすさを考えてナイフを作ることで、作る責任というのを果たそうとしている。

- ・山秀では常時 3000 点以上のナイフを展示や海外のアウトドアナイフの販売などを行っていると知りました。SDGs では、12 の作る責任、使う責任で刃物の楽しさを伝えるイベントやメンテナンス方法のレクチャーなどを行っていて、今後はキャンプ場の開発なども行っていきそうです。今まで関市の刃物といえば台所で使う包丁の方が身近で、ナイフはあまり自分の中で身近ではなかったのですが、今回の講座で様々なことを知ることができました。

- ・山秀さんは、地元で経営している有名な刃物の店かと思っていました。しかし、話を聞いていると外国とも関係を持っているということを知り、すごいなと驚きました。さらに、一年に一度、関市でナイフの貿易が行われていると聞いて今まで知らなく、世界とつながる拠点を持っていることに興味を持ちました。グローバルと関の刃物をくっつけるという発想が SDGs にも繋がっているなと思いました。

- ・海外の企業と協力し、ナイフの輸出、輸入をされていて、地元の会社でとてもグローバルに活動されていて、地元を誇りに思いました。今までで一番驚かれたという 100 徳ナイフは、使うことは出来ないけれど、職人さんの手にかかればなんでも作れてしまうのだなと驚いたし、感心しました。ジェンダー問題に対し、社長さんが女性目線でキッチンスタジオなどを設けるといった活動が素晴らしいと思いました。